

令和 2 年度 3 月 9 日
山形県循環型社会推進課

山形県における台風第 19 号に係る災害対応について

①災害の全般的データ（降雨量等気象関連データ）

山形県では、前線と台風接近に伴い 11 日から 13 日にかけて雨が降り続き、11 日 15 時から 13 日 9 時までの総雨量は、高畠 244.5mm、米沢 207.5mm、大蔵村肘折 189.5mm、山形 171.0mm を観測した。なお、12 日の日降水量は、高畠 218.0mm、米沢 185.0mm など、4 地点で観測史上 1 位を更新し置賜を中心に記録的な大雨となった。

②死傷・行方不明者数、避難者数、避難所開設数と開設期間

重傷者 2 名、軽症者 1 名

避難所数 329 箇所、開設期間～10 月 14 日

③初動としての生活ごみ、避難所ごみ、し尿収集への対応状況と収集量

生活ごみ、避難所ごみについては、通常の運搬範疇により処理
被災直後からし尿関係の被害状況を確認し、すぐに回収を実施

④初動期の業務実施状況、支援状況及び受援体制

県は、被災市町村に対して、仮置場の速やかな設置と住民への周知を依頼
仮置場等を設置した市町村の状況を現地確認し、仮置場の運営等を助言

⑤片付けごみ、建物撤去等による災害廃棄物の発生場所と仮置場の状況

高畠町、川西町において大量の災害廃棄物が発生し、仮置場を設置

⑥仮置場の運営体制と搬入状況

高畠町、川西町いずれも自前で運営

⑦災害廃棄物処理実施計画の概要

畳、可燃物等が大部分を占めており、推計量から、置賜広域行政事務組合（一部事務組合）の焼却炉で処理

⑧本格対応期における業務実施体制、実施内容、外部からの支援状況

被災市町村及び置賜広域行政事務組合において処理し、外部の支援は不要と判断

⑨災害廃棄物の品目別発生量、原単位等のデータ

市町村	可燃ごみ	不燃ごみ	流木等	家電製品等	稲わら※
米沢市	—	—	—	—	31
川西町	198	30	16	7	2,261
高畠町	64	12	3	3	2,330

※ 稲わら以外は実績値で、単位はトン（推計には、対策指針の原単位を利用）

⑩所要経費の手当て、補助金、その他の寄付

市町村の予備費により対応し、災害廃棄物の補助金を活用

⑪事業を通じての反省と今後のための提言

- ア 水害発生時から住民が災害廃棄物を搬出するまでの期間が短かったことから、仮置場を速やかに設置することができなかった市町村があり、災害廃棄物処理計画の重要性が再認識された。
- イ 今回の災害においては、これまで大きな問題とならなかった「稲わら」の処理について、農林部局との連携が必要となり、対応が遅れた市町村もあった。
- ウ 一部事務組合が災害廃棄物の処理について、構成市町村と処理量や処理料金等を定めていなかったことから、処理方法や処理料金の請求方法等に整理する必要があるがあった。
- エ 災害廃棄物の処理について、県を超えた広域連携は、これまでも議論されてきたが、具体的な連携方法を定めておく必要があると考える（市町村が姉妹都市等により直接交渉した場合、県等が把握できない）。